

令和4年度青森県営農大学校学校評価結果について

【自己評価の基準】 A:よく取り組まれており、成果が出ている。
B:遅滞なく業務が進められており、問題ない。
C:取り組まれているが、更なる工夫(改善)が必要
D:取り組まれていない。

1 教育活動に関すること

項 目	内 容	目 標 値	経過・実績(2/21現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員のコメント
(1) 地域農業の中核的担い手となる農業経営者及び農業を支える多様な人財の養成	① 入校生の確保に向けた周知活動の充実強化	・ オープンキャンパス(3回)	・ 前年度同様、新型コロナ対策として、少人数・分散開催とし、延べ10日間実施、参加者134名(前年144名)	・ 積極的かつ継続的なPR活動を実施 畜産課程及び女子入校生が増加	・ 積極的かつ継続的なPR活動の実施 ・ 畜産課程及び女子入校生の増加	自己評価の判定:A ・ 積極的PR活動により、本年度並の入校生が確保され、定員充足率約9割を確保 ・ GAP、農福連携、スマート農業など今後の重要課題をカリキュラムに導入 ・ 本年度卒業生の就農、農業関連業種への就職者割合が目標達成 ・ 社会人向け研修の内容が高評価	・ 自己評価の判定に異存はない。 ・ 取得率の低い資格について、高める支援をお願いしたい。 ・ 進路を他県の農大とする学生がいることから、さらに魅力あるカリキュラムづくりに取り組んでいただきたい。
		・ 学校説明会(1回)	・ 第1回オープンキャンパスと併催で1回実施、参加者4名(前年2名)				
		・ 県内在校生出身高校(26校)訪問、高校進路ガイダンスと進路相談会への出席	・ 高校訪問26校実施。43校に資料送付(前年訪問中止、76校に資料送付) ・ 進路ガイダンスには延べ15校、参加生徒63名(前年14校、52名) ・ 進学相談フェアに4回出席、参加生徒27名(前年31名)				
		・ ホームページとSNSの充実(情報発信回数:月2回以上)	・ 行事・学校生活の様子をSNSで33回情報発信(前年38回)				
		・ 希望入寮制と6次産業化コースをPR	・ オープンキャンパス、進路ガイダンス、県広報番組でPR				
	② 6次産業化や農福連携等に対応できる授業内容の充実強化	・ 6次産業化コースの授業・実習体制の充実・強化と加工品開発(8品)	・ 「マーケティング論(応用)」など外部有識者、産業技術センターとの連携による授業実施 ・ プロジェクト学習で「ドレッシング」等加工品を7品開発	・ 6次産業化、GAP、農福連携など外部有識者と調整して授業を展開 ・ 職員の52%が及第点と回答(前年51%) ・ 学生アンケートでは、「マーケティング論」、「ICT・先端技術活用論」の授業に対する興味・関心が高い	・ 外部有識者招へいによるカリキュラムの一層の充実		
		・ 関係機関と連携したプロジェクト学習の実施(各課程1つ以上)	・ 飲食店、JA、試験研究機関等の関係機関と連携したプロジェクト学習を各課程で実施(畑作:5課題、果樹:3課題、畜産:2課題)				
		・ 各専門分野に精通した外部有識者による講義の実施(10回以上)	・ マーケティング、経営管理、GAPなど外部有識者の講師を19回招へい(前年18回)、リモートによる講義は5回				
		・ スマート農業や農福連携等先進的な農業経営に対応できる授業の充実	・ スマート農業は外部有識者、県庁担当による講義のほか、メーカーを講師としたスマート農機の実演やドローンの操縦演習等、農福連携は「農政時事」で講義と演習を実施				
		・ 校内でキャリア講座及び企業説明会を実施し、学生の新規就農者と農業関連業種従事者の割合80%以上を確保	・ ジョブカフェの担当者等を講師としたビジネスマナー、就活講座を4回開催(前年3回) ・ 農業関連企業による企業説明会3回開催(前年3回) ・ 農業法人合同説明会「あおもり新・農業人フェア」に5名の学生が出席、うち1名が雇用就農として採用 ・ 就農及び農業関連業種就職者割合97%(前年89%)				
	④ 社会人向け研修による新規就農者の確保	・ 「あおもり農力向上シャトル研修」(シャトルコース、リカレントコース)を開講	・ 研修受講者10名(シャトルコース5名、リカレントコース5名、前年は両コースで11名) ・ 刈払機安全衛生教育、チェーンソー特別教育、大特、けん引研修を実施 ・ あおもり農業支援センターの研修生は、本校での受講に加え、リモートでの配信も対応 ・ 受講者アンケートでは高評価が多く、受講率も82%と高い	・ 就農、農業関連業種への就職者割合が97%で目標を達成 ・ 職員の70%が及第点と回答(前年60%) ・ 就農・就職・進学の助言・指導には学生の93%が評価(「きちんと取り組んでいる」、「多少取り組んでいる」の合計、以下同じ)(前年85%)	・ 社会人基礎力向上セミナーの充実 ・ 農業関連企業に加え、農業法人も含めた企業説明会の積極的開催 ・ 親元就農や独立自営就農に向けた学生と市町村、県民局との面談機会の設定		
		・ 「野菜1DAYセミナー」開催(20回)	・ 20回開催				
		・ 防災訓練(1回)、夜間防災訓練(1回)及び救急救命講習(1回)の実施	・ 防災訓練(5/24)、夜間避難訓練(6/28)、救命救急講習会(6/24)の実施				
		・ 新型コロナウイルス感染防止のため、学生及び職員の毎朝の健康観察を実施	・ 「夜間避難マニュアル」を改訂し、学生、職員、当直員で共有				
		・ 新型コロナウイルス感染症に係る対応マニュアルの改訂	・ 毎朝、寮居室又は自宅で検温・健康観察・記録を2段階でチェック ・ 常日頃からHR等で注意喚起、校内・寮内の定期的な消毒を実施 校内・寮内での新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業(8/25～29、12/13～18)の実施。休業に伴うカリキュラムの迅速な変更 ・ 国・県の対応・方針に合わせて、マニュアルを修正				
(2) 安全・安心な学校づくり	① 緊急事態等に対する危機管理体制の整備	・ 実習開始前の農作業安全の確認及び農業機械操作中のヘルメット着用率100%による学生及び職員の農作業事故の発生0件	・ 実習前の安全確認の実施 ・ 全員にヘルメットの準備と着用の徹底 ・ 学生、職員に危険事例アンケート調査を実施し、40事例回答	・ 学生、職員、当直員の危機管理意識が醸成 ・ 2度の臨時休業措置により、校内での感染拡大を最小限に抑制 ・ 職員の91%が及第点と回答(前年85%) ・ 学生の95%が評価(前年94%)	・ 学生、職員、当直員の防災意識を共有 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染法上の5類引下げに対応したマニュアルの改訂及び校内での感染拡大防止 ・ リモート授業の環境整備	自己評価の判定:B ・ 職員の防災意識は高く、継続した指導を実施 ・ 2度の臨時休業措置により校内での感染拡大を最小限に抑制 ・ 農作業事故の発生なし ・ 自動車事故2件発生	・ 自己評価の判定に異存はない。 ・ その他の意見なし。
		・ 交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・ 交通安全教室の実施(5/16、12/2)、特に冬期間の安全運転、飲酒運転防止の指導 ・ ホームルームでの安全運転呼びかけ(随時)				
		・ 交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・ 交通安全教室の実施(5/16、12/2)、特に冬期間の安全運転、飲酒運転防止の指導 ・ ホームルームでの安全運転呼びかけ(随時)				
		・ 交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・ 交通安全教室の実施(5/16、12/2)、特に冬期間の安全運転、飲酒運転防止の指導 ・ ホームルームでの安全運転呼びかけ(随時)				
		・ 交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・ 交通安全教室の実施(5/16、12/2)、特に冬期間の安全運転、飲酒運転防止の指導 ・ ホームルームでの安全運転呼びかけ(随時)				
(3) 職員の学生指導力の向上	① 学生指導に係る情報の共有	・ 職員間で学生指導に係る情報を共有するため、職員朝会(毎日)、課長会議(毎週)、指導職員会議(月1回)を実施	・ 職員朝会、課長会議、指導職員会議は概ね計画どおり実施 ・ 指導職員会議で学生の情報を共有	・ 指導職員会議のほか、課内で学生情報を共有 ・ 職員の47%が及第点と回答(前年67%)	・ 学生の指導情報の共有継続	自己評価の判定:B ・ 指導職員会議のほか、課内で学生指導情報を共有 ・ コロナ禍で参加が難しい中、各種研修等を実施するとともに、関係機関が開催する研修へ参加	・ 自己評価の判定に異存はない。 ・ その他の意見なし。
		・ 職員の資質と知識を向上させるため、学生指導に係る職場内研修会の実施	・ 学生指導に係る職員研修(4/4、全職員) ・ GAP職員研修(11/21、7名)				
		・ 指導力スキルアップのための研修会への参加(延べ15名以上)	・ 県、産技センター等各種技術研修受講(17回、26名)				
		・ 交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・ 交通安全教室の実施(5/16、12/2)、特に冬期間の安全運転、飲酒運転防止の指導 ・ ホームルームでの安全運転呼びかけ(随時)				
		・ 交通安全教室の実施(2回)やホームルームでの安全運転の呼びかけによる交通事故の未然防止	・ 交通安全教室の実施(5/16、12/2)、特に冬期間の安全運転、飲酒運転防止の指導 ・ ホームルームでの安全運転呼びかけ(随時)				
(4) 営農大学校機能強化に向けた取組の加速化	① 長寿命化計画の着実な推進	・ 令和4年度の改修工事の実施	・ 豚舎、果樹現場教室解体(12月) ・ 農具庫解体(～3月) ・ 牛舎新築については建設資材高騰等の影響により11月補正で増額の上、2月発注(来年度10月完成予定)	・ 職員の50%が及第点と回答(前年62%)	・ 予算の適正執行 ・ 施設の活用と維持管理	自己評価の判定:B ・ 建設資材高騰等により一部計画の遅れはあるものの、関係部局と連携し必要予算を確保。概ね計画どおり進捗	・ 自己評価の判定に異存はない。 ・ その他の意見なし。
		・ 令和5年度予算の確保	・ 建設資材高騰等の影響によりR5以降の施設整備計画の一部見直しし、R5工事分として農業機械整備実習舎、農業機械格納庫、構内受変電設備の改修工事費を予算要求中				
		・ 令和5年度予算の確保	・ 建設資材高騰等の影響によりR5以降の施設整備計画の一部見直しし、R5工事分として農業機械整備実習舎、農業機械格納庫、構内受変電設備の改修工事費を予算要求中				
		・ 令和5年度予算の確保	・ 建設資材高騰等の影響によりR5以降の施設整備計画の一部見直しし、R5工事分として農業機械整備実習舎、農業機械格納庫、構内受変電設備の改修工事費を予算要求中				
		・ 令和5年度予算の確保	・ 建設資材高騰等の影響によりR5以降の施設整備計画の一部見直しし、R5工事分として農業機械整備実習舎、農業機械格納庫、構内受変電設備の改修工事費を予算要求中				

【自己評価の基準】 A:よく取り組まれており、成果が出ている。
B:遅滞なく業務が進められており、問題ない。
C:取り組まれているが、更なる工夫(改善)が必要
D:取り組まれていない。

2 地域との連携に関すること

項 目	内 容	経過・実績(2/21現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員コメント
(1) 地元のイベント・スポーツ大会等への参加	① コロナ禍でも可能な限り、地元イベント等への参加、管内朝野球大会への参加	・ 七戸町のイベントはいずれも中止、七戸町ナイターバドミントン大会参加	・ 職員の13%が及第点と回答、イベント中止によりやむを得ない状況(前年40%)	・ 新型コロナウイルス感染症の感染法上5類への見直しに伴う行事・イベントの開催情報の収集、積極的参加	自己評価の判定:B	・ 自己評価の判定に異存はない。
(2) 農業関係高校との連携	① 令和5年度入校生の円滑な学生指導のため、高校訪問し情報収集	・ 書面での情報収集。希望校には訪問	・ コロナ禍で連携が難しい中、勉強会や刈払機安全衛生教育等、連携した取組を実施 ・ 職員の26%が及第点と回答(前年40%)	・ 農業関係高校との交流拡大による連携強化と職員間での情報共有 ・ 農業高校職員OBに外部講師への協力依頼	・ コロナ禍でも可能なかぎり、地域活動に参加、農作業体験受入、地元産直施設と連携して授業・実習を実施	・ この2か年、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域との連携活動は難しかったと思うが、今後頑張ってほしい。
	② 農業関係高校への授業・研修への参加	・ 肉用牛肥育技術向上の勉強会(6/27、三本木農業高校) ・ 農業高校と連携した刈払機安全衛生教育の実施(8/3、三本木農業高校) ・ 農業高校生を対象とした営大の講義や実習の体験についての打合せ(1/30、三本木農業高校)				
	③ 農業高校職員OBによる授業の実施	・ 農業概論(1名)				
(3) 農作業体験の受入れ	① 児童・小学生・中学生、教員等を対象に、食や農業への関心・理解を深めることを目的に、本校施設を活用した見学及び農作業体験学習を実施	・ 検温、健康観察、手指消毒、マスク着用等コロナ対策を実施して、こども園、中学校、養護学校の延べ4団体の農作業体験を受入(前年4団体)	・ 学校との事前調整に配慮 ・ 職員の64%が及第点と回答(前年72%)	・ 学生を主体とした農作業体験への対応		
(4) 産直施設「七彩館」との連携	① プロジェクト研究に係る消費者アンケート調査等の実施	・ 「七彩館」を活用した消費者アンケート、ニーズ聞き取りなどの実習を実施 校内直売所「大ちゃんの店」を「七彩館」で開催し、県内外の来客者へ農産物・加工品を販売(全6回中4回)	・ アンケート調査等のノウハウを習得 ・ 職員の71%が及第点と回答(前年69%)	・ 実習時のコロナ対策の徹底		

3 アクションプログラムの進行管理に関すること

項 目	内 容	目 標 値	経過・実績(2/21現在)	自己評価	今後の課題	評価結果	評価委員コメント
(1) 畜産課程の専攻コースの再編等に伴う教育環境の整備	① 肉牛、酪農、養豚の3コースを見直し、肉牛を中心に酪農も学ぶ畜産コースへ改編	・ 適正な頭数の維持継続 ・ 新築牛舎の設計検討、法律改正に伴う乳牛舎の改修計画作成	・ 再編目標頭数36頭(肉牛28、乳牛8)に対して、34頭(肉牛23、乳牛11)を維持	・ 肉牛を中心に酪農も学ぶ畜産コースのカリキュラムが定着 ・ 県畜産課との調整による外部講師の確保	・ 適正な飼養頭数維持 ・ 外部講師の更なる充実	自己評価の判定:B	・ 自己評価の判定に異存はない。 ・ その他の意見なし。
(2) 6次産業化コースの新設・科目の充実	① 段階に応じた学習内容の検討や講師の選定	・ プロジェクト研究等に係る試作品の販売に向けた漬物製造許可の取得	・ 今年度、漬物製造許可を取得し、計7つの製造許可を取得 ・ 加工・流通・食品試験研究分野のプロジェクト学習開始(8名) ・ マーケティング論(応用)、食品加工・貯蔵学等外部講師の選定・調整 ・ 食品衛生責任者資格を取得(8名)	・ 企業や関係機関・団体と連携したプロジェクト学習の取組が定着	・ 外部講師の確保・調整 ・ 6次産業化コース専攻者の定員の目安設定		
(3) 新規参入者や新規就農者に対応した研修の充実	① 就農希望者に対する農家研修を主体とした実践的な研修制度の導入、あおり農力向上シャトル研修を実施(H30年度～)	・ シャトル研修シャトルコース受講者の新規就農	・ 「シャトル研修」受講者5名は次年度就農見込み	・ セミナーは予定した回数を開催し、1回当たりの受講者は8.1名を確保 ・ 受講者アンケートでは、内容に対する満足度が高く、概ね高評価	・ 農業支援センター、県民局との連携・役割分担を検討し、本校での座学を充実・強化		
	② 新規就農者に対する学び直し(リカレント)研修の実施	・ 「野菜1DAYセミナー」を5～2月まで20回開催	・ 野菜1DAYセミナーを20回開催、延べ参加者161名(前年18回、146名)				
(4) 希望入寮制の充実	① アンケート調査や全国の農大の動向を踏まえ、希望入寮制に変更、希望者は通学可(H30年度～)	・ -	・ 寮生は69名(うち男子55名、女子14名)、通学生は9名(青森市、八戸市、十和田市、七戸町、おいらせ町) ・ 令和5年度入寮予定者の寮室確保に向けた取組の実施	・ 令和5年度に向け、近隣市町村出身の1学年入寮生に対して通学への変更を依頼し、寮室を確保	・ 学生募集での寮定員や入寮基準の周知		
(5) 安全管理の充実	① 指導職員による定期的な生活指導と寮の自治活動支援	・ 防災訓練(夜間を含む)の実施(2回)、週1回の指導職員による点呼、自治会活動・体制整備の支援(月2回)	・ 防災訓練(5/24)、夜間避難訓練(6/28)、指導職員による点呼実施(週1回)特別清掃、委員会活動の自治会活動を支援(月2回)	・ 計画どおり実施 ・ 継続した指導で自治会の自主性を養成	・ 安全管理、自治会活動の支援を継続		
(6) 居住性の改善	① 男子寮は1人部屋化、食堂、男子風呂のある生活棟を改修(R2～3年度)	・ -	・ 男子寮改修はH30年度、生活棟改修はR3年度実施済み	-	-		
(7) 施設長寿命化計画の後期計画の策定	① 緊急性、優先順位等を勘案し、計画的な改修工事の実施	・ -	・ 建設資材高騰等の影響によりR5以降の施設整備計画を一部見直しし、R5当初予算では農業機械整備実習舎、農業機械格納庫、構内受変電設備の改修工事費と選果貯蔵庫改修に係る実施設計費を予算要求中	-	-		